

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の都の定点当たり報告数は、3.54で増加傾向です
- ・ R S ウイルス感染症の都の定点当たり報告数は、2.05で増加傾向です。

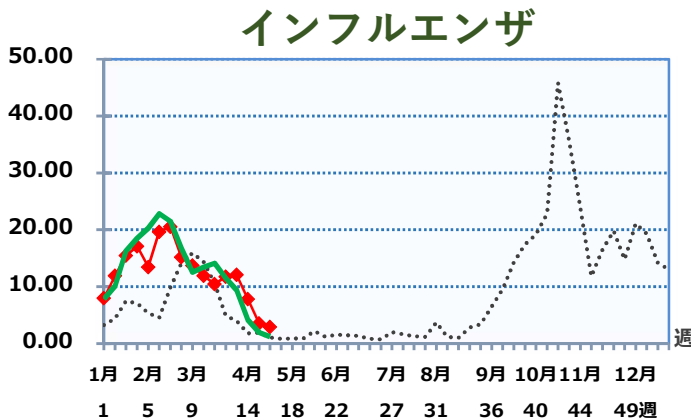
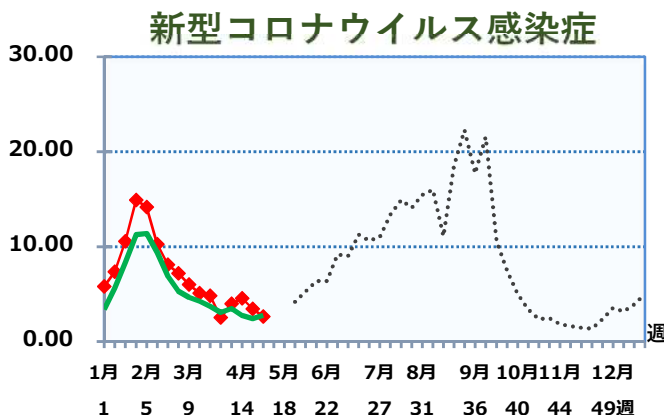
全数報告対象疾患

- （五類）劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件
 - ・（30代女性）A群、感染地及び感染経路は不明
- （五類）梅毒 1件
 - ・（50代男性）早期顕症梅毒Ⅰ期、感染地は北区、推定感染経路は性的接触（異性間）

定点把握対象疾患

定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2023北区
—◆— 2024北区
—■— 2024東京都



Topics

デング熱に注意を！海外渡航時は「蚊」に注意しましょう

熱帯、亜熱帯地域において、「蚊」に刺されることで感染するデング熱の大規模な流行が報告されています。

またこれまで感染の確認されていなかった欧州地域でも感染例が確認されています。

連休中、海外旅行などを計画されている方は特に「蚊」に注意してください。

【デング熱とは】

デングウイルスの感染によって起こる急性の熱性感染症です。デングウイルスを保有する蚊に刺されると感染します。ウイルス感染後、3日から14日（多くは4日から7日）の潜伏期間のあと症状が出現します。

【デング熱の症状】

発熱、頭痛、関節痛、発疹などが主な症状です。まれに臓器障害、出血症状、ショック症状などを起こすことがあります。

早期に適切な治療が行われなければ死に至ることがあるため、渡航中に上記の症状が現れたときは、自己判断で解熱剤を服用したりせず、すぐに医療機関を受診してください。

【予防について】

デング熱の予防には、蚊に刺されないことが最も重要です。緑の多い木陰やヤブなど、蚊の発生しやすい場所に立ち入る際には、長袖、長ズボンを着用し、肌を露出しないようにしましょう。

足元も素足やサンダル履きは避け、定期的に虫よけスプレーを使用するのがよいでしょう。

【帰国後に注意すること】

デング熱の感染地域から帰国後には、症状が出現する可能性があるため、少なくとも2週間は健康状態を観察し、症状が現れたらすぐに医療機関を受診しましょう。渡航歴を医師に伝えることで、迅速かつ適切な診断と治療が可能になります。

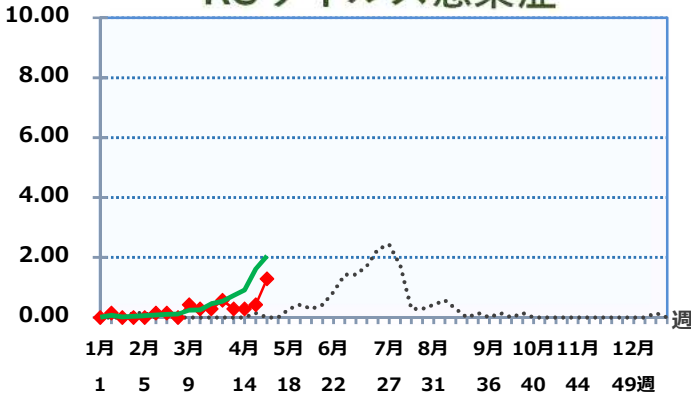
また、国内でのウイルス拡散防止のため、症状の有無にかかわらず、帰国後2週間程度は蚊に刺されないための対策を行ってください。

定点把握対象疾患

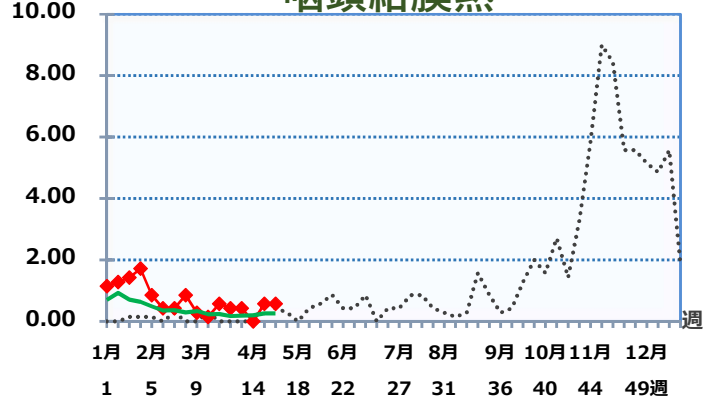
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数 ÷ 定点医療機関数)

- 2023北区
- ◆— 2024北区
- 2024東京都

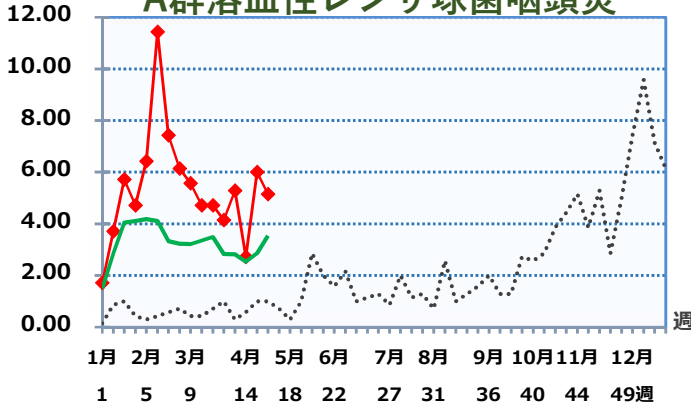
RSウイルス感染症



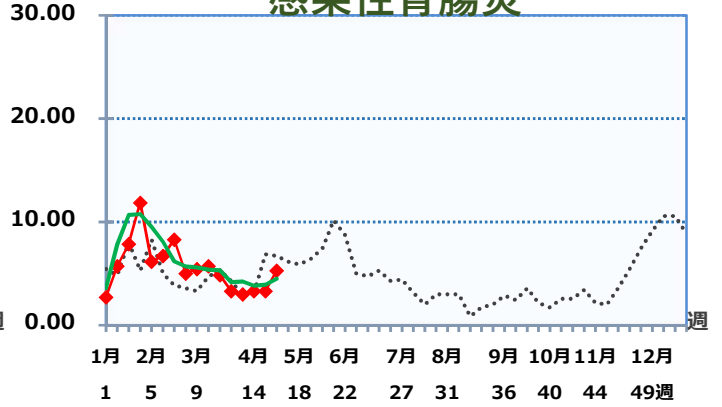
咽頭結膜熱



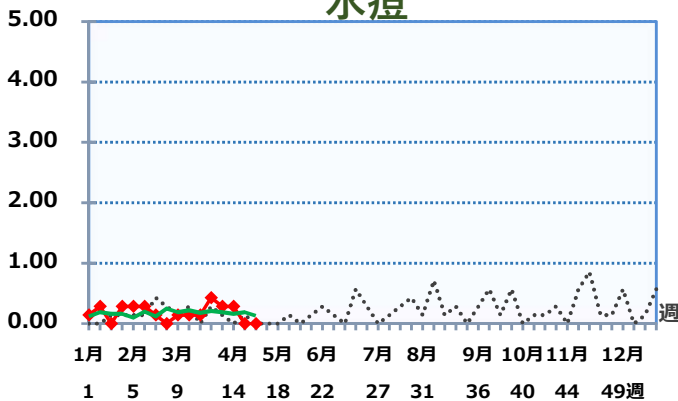
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



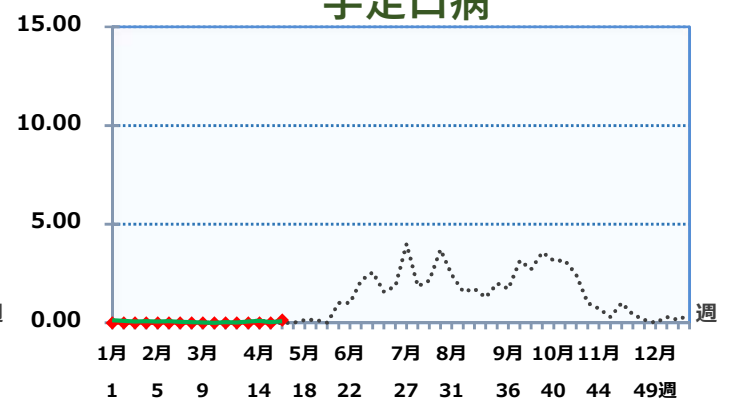
感染性胃腸炎



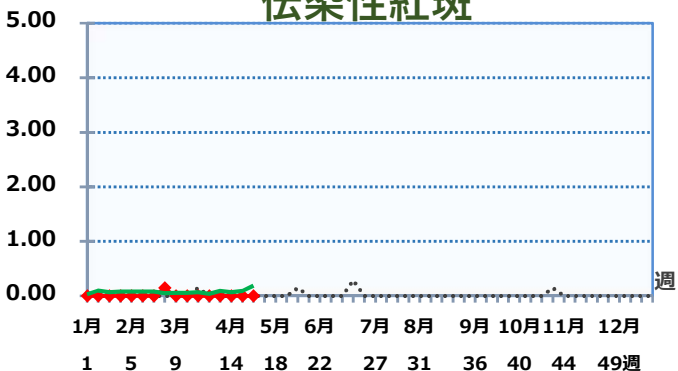
水痘



手足口病



伝染性紅斑



突発性発しん

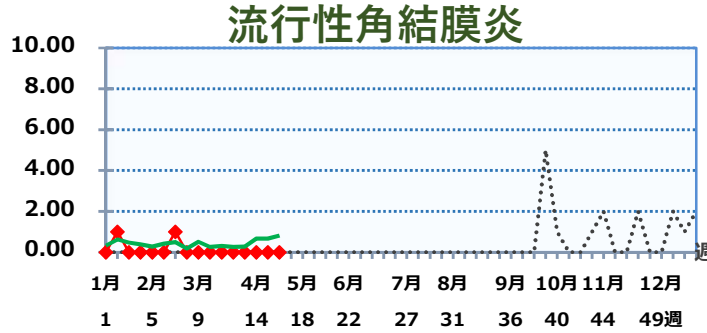
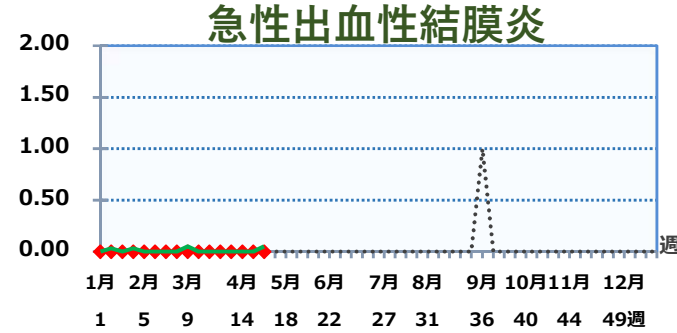
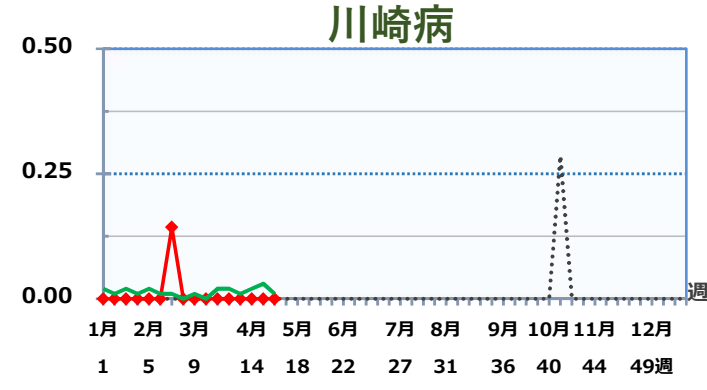
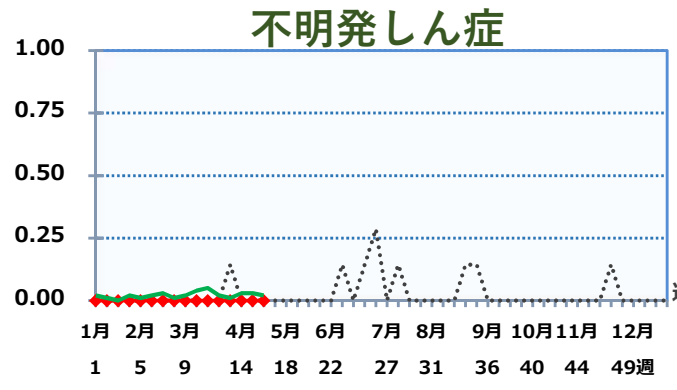
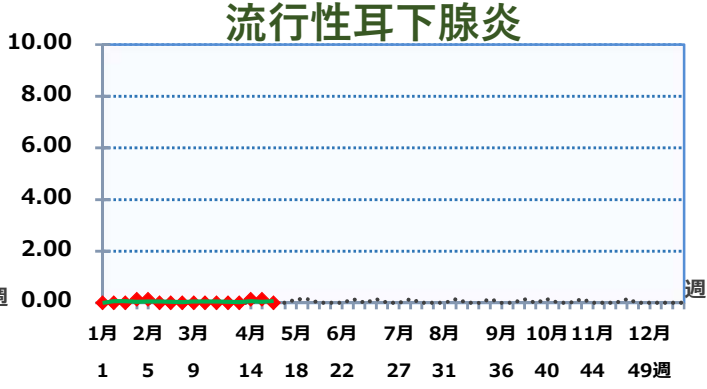
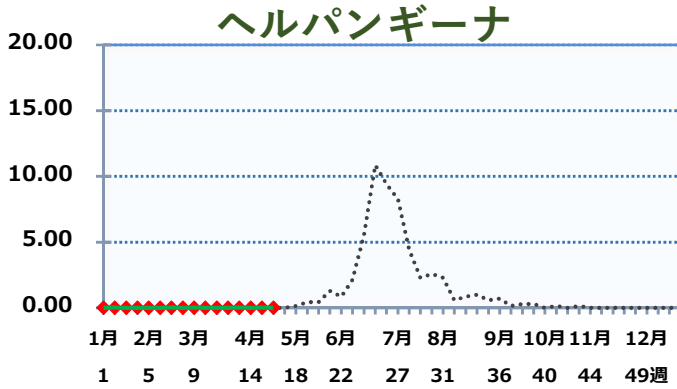




定点把握対象疾患

定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

- 2023北区 (Dotted line)
- 2024北区 (Red line with diamond)
- 2024東京都 (Green line)



性感染症 (2024年3月分まで) ※梅毒は「全数報告対象疾患」に掲載しています。
2024年4月分は2024年第19週号にて掲載予定です。

